

BUDŌ

NEWS

今月のニュース



第71回全日本剣道選手権大会
優勝した森田龍介選手が記者インタビューに応える

第71回全日本剣道選手権大会

棗田龍介（広島）が 初出場で大会制覇

剣道日本一を決める第71回全日本剣道選手権大会（主催Ⅱ全日本剣道連盟）が11月3日、日本武道館で開催された。大会には各都道府県の予選を勝ち上がった63名に前回大会優勝者を加えた計64名が出場し、トーナメント方式で争われた。

決勝は広島県代表の棗田龍介（なづめた広島県警）と茨城県代表の松崎賢士郎（筑波大学院）が対戦。延長戦までもつれた戦いを棗田が小手で制し、第62回大会の竹ノ内佑也以来9年ぶりとなる初出場初優勝の快挙を達成した。また、広島県勢の初優勝もあり、地元広島に初の栄冠をもたらした。



城松崎



天皇杯を手にする葵田



決勝・延長戦で葵田（左）が小手を決める

■第1ブロック

前回大会優勝の村上哲彦（愛媛・愛媛県警）は連覇の期待がかかるものの、選手権初出場の鈴木龍哉（千葉・法政大）に延長戦の末、面を決められ敗北。前回大会王者が1回戦で姿を消した。鈴木は、その後の試合も勝ち上がり、準々決勝進出を決めた。

第69回大会優勝の星子啓太（東京・警視庁）は、1回戦で大田真平（石川・石川県警）、2回戦で柴田駿介（山口・山口県警）、3回戦で小角朋樹（大阪・大阪府警）を破り、盤石の強さで準々決勝まで勝ち上がった。準々決勝は星子と鈴木木の九州学院



第1ブロック・準々決勝
星子（左）が鈴木木の面を攻める

高出身者同士の対戦。序盤、中盤と緊張感のある鋭い攻防が続く。動きがなく延長戦で勝負を決するかと思われたが、試合時間残りわずかのところで、星子が鍔迫り合いから離れる瞬間、引き面を決めて待望の一本を奪い勝利。準決勝進出を決めた。

■第2ブロック

第68回大会優勝の松崎は、1回戦で中山寛大（福岡・福岡県警）、2回戦で三浦康貴（兵庫・兵庫県警）、3回戦で山下雄輔（三重・三重県警）を下し準々決勝まで勝ち上がる。

準々決勝は、選手権出場3度目の大城戸知（大阪・大阪府警）との対戦。試合開始1分9秒、両者間合いを探り合う展開から、松崎が飛び込み面を決め、一本を先取する。大城戸は松崎に間合いを保たれ続け、思うような攻めができず試合終了。松崎は3大会ぶりの準決勝進出を果たした。

■第3ブロック

第62回大会優勝の竹ノ内佑也（東京・警視庁）に注目が集まる。竹ノ



第2ブロック・準々決勝
松崎（左）が大城戸から面を奪う

内は10月24日に行われた全国警察剣道大会で警視庁の大將を務め、代表戦までもつれこんだ決勝戦を制し、逆転優勝を収めた。勢いに乗る竹ノ内は、1・2回戦を面2本で勝利を収める。3回戦では、今大会最年少出場の大平翔斗（栃木・鹿屋体育大）と対戦。試合は、開始直後に竹ノ内が面で先取し、そのまま勝利。準々決勝進出を果たした。

もう一方は、第67回大会優勝の國友鍊太郎（福岡・福岡県警）が準々決勝に駒を進めた。

準々決勝は、竹ノ内と國友の対戦。試合開始8秒、國友が小手を狙ったところで竹ノ内が面を決めて一本を先取。さらに試合中盤では、再

◎選手の声

▽ベスト8・鈴木龍哉選手（21）

星子選手は高校の先輩だったので、思いっきりいこうと思いました。自分が気を抜いたところを打たれてしまいました。自分に予選で負けて選手権に出られなかった選手のことを考えると、ベスト8で満足してはいけないと思っています。

▽ベスト8・大城戸知選手（39）

打たれたところは何もできなかったです。自分の実力的にもあれこれ考えず出し切ろうと思いましたが、一枚も二枚も松崎選手が上手だったと思います。

▽ベスト8・國友鍊太郎選手（33）

今の実力だと思っています。自分の剣道をやるしかないという気持ちで試合に臨みました。

▽ベスト8・三雲悠佑選手（34）

剣道を始めた時から、テレビで観ていた舞台（大道場）に1試合場の（み）で初めて試合ができたので、自分の剣道人生において、いい経験になりました。ようやくベスト16の壁を突破できましたが、悔しさも残りました。

▽前回優勝・村上哲彦選手（31）

好評発売中!

剣道

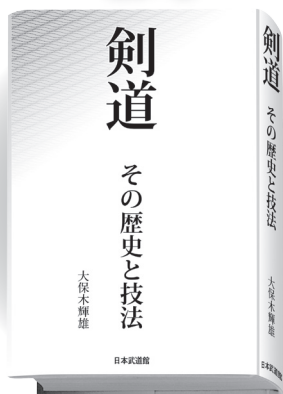
その歴史と技法

大保木輝雄

日本武道館

埼玉大学名誉教授
大保木輝雄 著

剣道の歴史・技法を戦国期から現代まで時代を追ってわかりやすく解説。



四六判・上製・516頁・定価2,640円

◎ ご注文・お問い合わせ ◎

(公財) 日本武道館 月刊「武道」編集部
〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
TEL 03-3216-5147 FAX 03-3216-5158
<https://www.nipponbudokan.or.jp>



第3ブロック・準々決勝
竹ノ内（手前）が2本目の面を決めて勝利

■第4ブロック
び國友が小手を攻めるが、竹ノ内が素早く面を合わせ勝利。竹ノ内はここまで延長戦はなく、一本を全て面で決める庄巻の内容で準決勝に勝ち上がった。

初出場の藁田は、1回戦で江原寛二（岐阜・岐阜県警）に面2本で、2回戦で山崎誠司（兵庫・兵庫県警）に面1本で勝利。3回戦では、今大会最年長出場の橋本桂一（埼玉・伊田テクノス）と対戦。試合開始2分58秒、橋本が面に飛び込んだところを藁田が胴で返し、一本を取り、勝利を収めた。

もう一方は、選手権上位常連の林田匡平（福井・丸岡高教員）が1回戦で姿を消す中、選手権出場7度目の三雲悠佑（滋賀・東レ）が準々決勝進出。3回戦で笹川哲平（佐賀・佐賀県警）との3回にわたる延長戦の末、勝ち上がった。

準々決勝は藁田と三雲の対戦。試



第4ブロック・準々決勝
藁田（左）が三雲から小手を取って勝利

合は開始15秒、三雲が面を繰り出した瞬間、藁田が素早い反応で出ばな小手を捉えて一本を先取。その後は、両者ともに果敢に攻めるも、そのまま試合終了。藁田が初出場ながら、堂々の準決勝進出を果たした。

試合の入り方としては、いつも通り集中できていたと思います。状況を变えようと強引に攻めたところを取られてしまったと思います。

▽最年少出場・大平翔斗選手（20）
自分のいいところは出せたと思うので悔いはないです。一番年齢が下ということ、思いっきり試合に臨むことを心がけました。

▽最年長出場・橋本桂一選手（43）
スタミナも切れてしまい、どうにもなりません。本当は高段者らしくどっしり構えて試合に臨みたかったのですが、どうしても勝ちたいたい気持ちや負けたくない気持ちなどが混在し、思うように構え続けることができませんでした。



別角度からみた松崎（左）の一本目の面

両者ともに選手権優勝経験があり、なおかつ筑波大学の同期でもある星子と松崎の対戦。今年10月にサウジアラビアで開催されたコンバットゲームズでは、決勝で対戦。その時は松崎が星子に勝利し、優勝に輝いている。

試合が動いたのは開始3分。星子が距離を詰めたところに、松崎が面を繰り出し一本を先取した。そして試合開始4分、再び松崎が星子から面で一本を取り試合終了。松崎が3大会ぶりの決勝戦進出を果たした。

準決勝①

松崎 賢士郎 (茨城) ×× —— 星子 啓太 (東京)



松崎（右）が面を決めて一本目を奪う

準決勝②

棗田 龍介 (広島) × —— 竹ノ内 佑也 (東京)



棗田（右）が素早い反応で竹ノ内の面を捉えて一本

準決勝進出を果たした棗田と、ここまで圧巻の強さで勝ち進んできた竹ノ内の対戦。

試合開始から棗田は竹ノ内に臆することなく、果敢に技を繰り出し攻めていく。試合開始3分9秒。竹ノ内が諸手突きを繰り出したところに、棗田が面で返して一本を決める。追いつきたい竹ノ内であったが、攻める棗田に対して、なかなか技を出すことができず試合終了。棗田が決勝に勝ち進んだ。



竹ノ内（右）の諸手突きは惜しくも決まらず

決 勝

棗田 龍介
(広島)

コ ― 延長戦

松崎 賢士郎
(茨城)

初出場での優勝に主手をかけた棗田と、3大会ぶりの王座返り咲きを目指す松崎の対戦。
試合は、間合いをお互いに掴めず膠着状態が続く。
試合開始3分には、今大会の規定により、松崎が鏑迫り合いの中、一呼吸（およそ3秒）で離れる意思がないとみなされ反則が与えられる。その後も両者決め手に欠き、試合は終了。延長戦に続く。
延長戦開始15秒、棗田が片手突きを繰り出すも決まらず。そして開始1分12秒、松崎の手元が一瞬浮いたところを棗田が見逃さず、小手を決めて試合終了。棗田は第62回大会の竹ノ内以来となる、9年ぶりに初出場で初優勝の快挙を達成した。また、広島県勢としても初の優勝となり、初めてづくしの栄冠に輝いた。



棗田（左）が延長戦で小手を決め松崎に勝利



松崎（左）が棗田の面を攻める



棗田（右）が延長戦で片手突きを繰り出し、果敢に攻める



支えてくれた方へ感謝

●優勝Ⅱ 栗田龍介選手・四段（23歳・広島県警）



棗田龍介
 (なつめだ・りゅうすけ)

2000 年生まれ、広島県出身。小学 1 年生の頃から剣道を始める。父親は現在、広島県警主任師範を務めている。高校は水戸葵陵高校に入学。その後、日本体育大学を経て、広島県警に奉職。現在は警察学校に通っている。

——剣道日本一になった感想を。

「実感はあまりないですが、これまで支えてくださった方々に感謝の気持ちを忘れずにこの大会に臨んだので、その結果が優勝という形で現れて、本当に嬉しいです」

——広島県勢で初の優勝です。

「幼い頃から広島で剣道を教わってきたので、お世話になった先生方に少し恩返しができたかなと思います」

——決勝の相手は松崎選手でした。どのような気持ちで試合に臨みましたか。

「中学生の頃からみていた選手だ

ったので、この舞台で試合するこ
とができて感謝の気持ちでいつば
いですし、最後まで戦えたことが
本当に嬉しいです」

——延長戦の小手は狙っていましたか。

「狙っていたわけではないです。とにかく集中して、自分の持ち味を発揮することだけを考えていたんで、最後の技も無心で体が勝手に反応した技だと思っています」

——現在の環境について。

「今年一年警察学校からスタートして、9月末までは練習が週に1、2回ほどしかない環境の

中で、剣道をやっていない同期や学校教官の方々に剣道に対して応援してもらっていたので、この大会には特別な想い^{おも}で臨みました」

——今回の一番の勝因は。

「1回戦目から自分の剣道を出しきることだけを意識してきたので、最後までその姿勢を崩さず試合に臨めたことが勝因だと思います」

——王者として今後どのような剣道を追求していきたいですか。

「この結果におこに驕ることなく、また一からしっかり頑張りたいと思います」

——優勝の喜びをどなたに伝えたいですか。

「家族であつたりいろいろな方に支えていただいて、今回の結果に繋がったと思うので、そういった人たちに感謝しています」

——この経験は今後どのように活かしていきたいですか。

「今年から社会人として新しい環境になりますが、広島に帰っても今まで通り稽古に励み、頑張りたいと思います」

▽準優勝Ⅱ松崎賢士郎選手 (25)



悔しさの実感
すらまだ来てい
ませんが、これ
から悔しい一年
になるんだろう

など感じています。負けてはいけな
いという気持ちが一先走って、後手に
回ってしまいました。栗田選手の思
い切りの良さに吞まれて、最後は崩
されてしまいました。

▽第3位Ⅱ竹ノ内佑也選手 (30)



自分の剣道を
貫き通したとい
う点で満足はし
ていますが、あ
と一歩及ばない

ところが選手権の難しさなのかなと
感じました。準々決勝までは、いい
試合運びができたと思います。

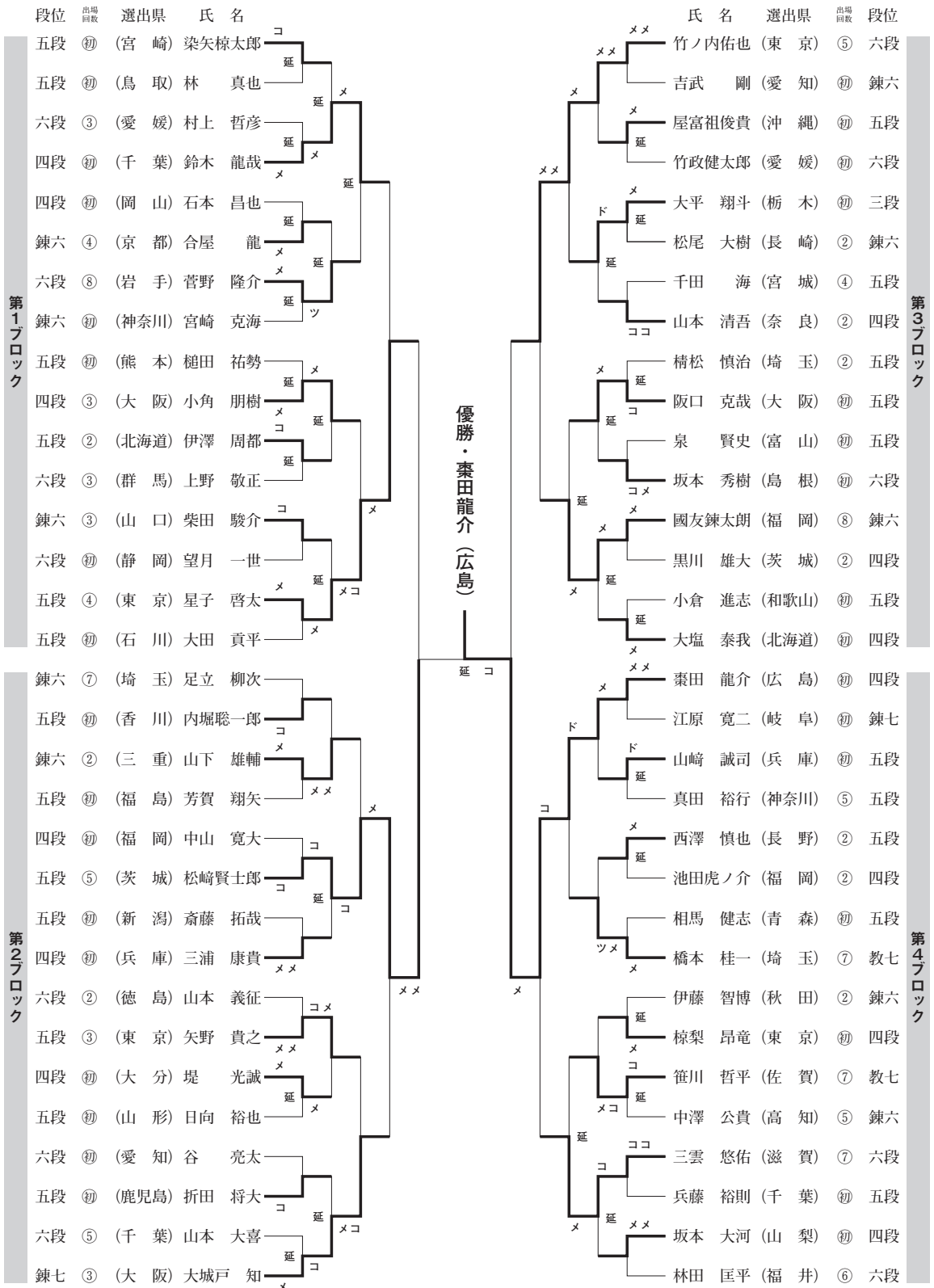
▽第3位Ⅱ星子啓太選手（25）



悔しいです。
技の入りを注意
しなければいけ
なかつたと思い
ます。実力が足

りていなかったの、また一から頑張りたと思います。

第71回全日本剣道選手権大会



女子
57kg級
決勝

古賀ひよりが 袈裟固で初優勝



男子
100kg級
決勝

植岡虎太郎が 背負投で連覇

2023 年度講道館杯 全日本柔道体重別選手権大会

体重別の柔道日本一を決める2023年度講道館杯全日本柔道体重別選手権大会が11月4・5日、千葉ポートアリーナ（千葉県千葉市）で開催された。試合は男女14階級で争われ、男子100kg級では、植岡虎太郎（日本製鉄）が増山香補（パーク24）との激戦を背負投で制して連覇を達成した。女子57kg級では、古賀ひより（パーク24）が高野綺海（日本エススポーツ）に袈裟固で勝利し、初優勝に輝いた。

また14階級のうち、7階級で学生王者が誕生。5年後のロサンゼルスオリンピックに向けて、次世代の選手が台頭した大会となった。

大会は、国際柔道連盟の試合審判規程により、試合時間は4分、トーナメント形式で行われた。

男子

▼60kg級

樋口裕大 ○一本背負投 足立悠晟

決勝は、天理大出身の樋口裕大（大阪府警）と足立悠晟（天理大1年）による天理大の先輩後輩対決となった。前半、樋口は足立の吊り手を巻き込んだ一本背負投で技ありを奪取。後半、再び樋口は一本背負投を放ち、今度は一本で勝利した。経験の差を見せた樋口は感涙に咽び泣く初優勝に輝いた。

▼66kg級

武岡毅 ○小内巻込 藤阪泰恒

決勝は、連覇を狙う武岡毅（パー

ク24）と23年全日本選抜柔道体重別選手権大会優勝の藤阪泰恒（パーク24）の同門による初対決。中盤、武岡が自分の襟を掴ませ、藤阪の身体が上がったタイミングで鮮やかな小内巻込を決めた。武岡は2連覇を達成した。

▼73kg級

石原樹 ○大内返 田中龍雅

勝ち上がったのは、23年選抜体重別優勝の石原樹（日本体育大4年）と22年世界ジュニア選手権大会優勝の田中龍雅（筑波大1年）の学生対決。両者は指導を二つ受けて4分間が決。延長戦で4分が経過したところで、石原が田中の大内刈を返して技ありを奪い、初優勝に輝いた。

▼81kg級

天野開斗 ○腰車 北條嘉人



90
kg級
決勝

森（上）が隅落後に抑え込む



81
kg級
決勝

天野（左）が腰車で技ありを奪う



66
kg級
決勝

武岡（上）の鮮やかな小内巻込



73
kg級
決勝

石原（上）が大内刈を返す



60
kg級
決勝

樋口（右）は一本背負投で勝利



100kg級・3回戦＝熊坂が大内
刈を向（左）に決める

決勝は、森健心（明治大4年）と23年選抜体重別で優勝の田嶋剛希（バーク24）。本戦は互いに指導を二つ受けて終了。延長戦、肩車を仕掛けた田嶋に森が隅落で返す。判定の結果、これが技ありとなり森が勝

決勝は、23年世界ジュニア優勝の天野開斗（東海大2年）と22年講道館杯2位の北條嘉人（日本大4年）の学生同士による初対戦となった。中盤に北條の浮技を間一髪のところ

▼90 kg級
森健心 ○隅落 田嶋剛希

植岡虎太郎 ○背負投 増山香楠

利。森は学生最後の大会で有終の美を飾った。

▼100 kg級

3回戦、東京オリンピック混合団体銀メダルの向翔一郎（トーシン工業）は熊坂光貴（センコー）に大内刈で敗れた。

▽向翔一郎（トーシン工業）

「試合から離れすぎて、試合勘が戻らなかったです。悔しいです。悔しくなったら選手として終わりたいと思いますからまだ頑張りたいです」

決勝は、22年講道館杯優勝の植岡虎太郎と増山香楠が勝ち上がった。

本戦で両者は二つの指導を受け延長戦へと突入した。共に得意の背負投や足技の応酬を見せるが、ポイント

を奪うまでには至らない。最後は植岡が低い体勢から背負投を力いっぱい放って一本。12分近くにも及ぶ接戦を植岡が制し、連覇を達成した。

▼100 kg超級

4回戦、東京五輪代表選手の前沢久喜（長府工産）は中野寛太（旭化成）に内股で敗れた。



48
kg級
決勝

近藤（手前）が攻める



100
kg超級
決勝

中野（手前）対太田



63
kg級
決勝

山口（上）が大内刈で勝利する



52
kg級
決勝

白石（左）が背負投で攻める

▼48 kg級

■女子

中野寛太 ○反則負け 太田彪雅
決勝は、ここまで全て一本勝ちをしてきた中野寛太と23年選抜体重別優勝の太田彪雅（旭化成）。過去、2回対戦しており中野が勝利している。早々に組み手を嫌がる太田に指導が入る。さらに残り1分で消極的な両者に指導が入り、太田に後がなくなつた。延長戦でも持ち味を活かせない太田に三つ目の指導が入り、中野が講道館杯で初優勝を飾った。



▽原沢久喜（長府工業）
「試合をやりながらいまいちだと感じていました。これからオリンピック出場も厳しいですし、今後のことはゆつくり考えたいと思います」



100kg超級・4回戦＝
中野（下）対原沢

白石響 ○反則負け 藤城心
決勝は、22・23年と選抜体重別連覇の白石響（環太平洋大4年）と藤城心（三井住友海上火災）による対戦。組み際に足技から素早く連絡し何度も背負投に入ろうと攻勢をかける白石。ポイントにはならないものの、藤城が指導を三つ受けて反則負け。白石が初優勝を飾った。

古賀ひより ○袈裟固 高野綺海
勝ち上がったのは、準決勝で玉置桃（三井住友海上火災）を下した古賀ひよりと23年選抜体重別優勝の高

近藤美月 ○反則負け 吉岡光
決勝は、近藤美月（東海大1年）と6月のグランドスラム・ウランバートル優勝の吉岡光（東海大3年）による東海大の同門対決。左の相四つで組み合い、足技の攻防を見せる両者。中盤に、身体が下がり守りの姿勢をとる吉岡に指導が入る。延長戦となり、近藤が内股を仕掛けたところで吉岡に指導2が入った。さらに近藤が大外刈を放ったところで、吉岡に三つ目の指導が与えられ、近藤が初優勝を飾った。



78 kg超級 決勝

高橋（左）が担ぎ技で攻める



70 kg級 決勝

寺田（左）は上四方固で勝負を決した



78 kg級 決勝

杉村（上）が技ありを奪取

野崎海。互いに指導1を受けて本戦は終了。延長戦、高野が巴投で引き込もうとしたところを古賀が素早く袈裟固に入り、技ありを奪取。嬉しい初優勝を飾った。

▼63 kg級

山口葵良梨 ○大内刈 青野南美

決勝は、山口葵良梨（国士舘大4年）と青野南美（福岡県警）。両者は去年の全日本学生体重別選手権で対戦しており、青野が勝利している。ケンカ四つで引き手争いを展開し、山口に指導1、青野に指導2が入り延長戦にもつれ込む。延長戦、山口が何度も内股や隅落で攻勢をかけ、最後は大内刈が技ありとなつて、勝利。山口が初優勝を成し遂げた。

▼70 kg級

寺田宇多菜 ○上四方固 西願寺里保

決勝は、寺田宇多菜（J R東日本）と西願寺里保（コマツ）。互いに二つの指導を受け、延長戦に入る。延長戦で寺田が担ぎ技から上四方固に入り、ポイントを取って勝利。3年ぶり2回目の優勝を飾った。

▼78 kg級

杉村美寿希 ○内股すかし 泉真生

決勝は、杉村美寿希（東海大2年）

と6月のグランドスラム・アスタナで優勝の泉真生（コマツ）。両者は22年以降に3回対戦し、すべて泉が勝利している。本戦で泉が猛攻を仕掛け、杉村は指導を二つ受け退路が絶たれた。延長戦、杉村は泉の内股をすかして技ありを勝ち取った。勝機を逃さず、初めて泉に勝利した杉村が涙の初優勝に輝いた。

▼78 kg超級

高橋瑠璃 ○反則負け 瀬川麻優

決勝は、準決勝で児玉ひかる（SBC湘南美容クリニック）との接戦を制した高橋瑠璃（SBC湘南美容クリニック）と瀬川麻優（ALSO K）の対戦。両者は指導を一つ受けて本戦は終わる。延長戦早々に消極的な瀬川に二つ目の指導が入った。延長6分過ぎ、両者に疲れが見えてくるなかそれぞれに指導が入り、瀬川の反則負けで高橋が初めて頂点に立った。





52kg級
白石響



48kg級
近藤美月



100kg超級
中野寛太



100kg級
植岡虎太郎



90kg級
森健心



81kg級
天野開斗



73kg級
石原樹



66kg級
武岡毅



60kg級
樋口裕大

14階級・優勝者コメント

男子

●60kg級Ⅱ樋口裕大（大阪府警）

「優勝できて嬉しいです。決勝は大学の後輩で、天理大への出稽古と一緒に練習していますので負けられませんでした。先へ先へ攻め、狙い通りの背負投ができました。お世話になった方々にお礼を言いたいです。ありがとうございました」

●66kg級Ⅱ武岡毅（パーク24）

「ここで勝たなければいけないと決意を持って臨みましたので優勝できてホッとしました。藤阪先輩は手の内を知っている仲ですが、自分の前に出る柔道、先輩に引けを取らない柔道ができたのかなと思います」

●73kg級Ⅱ石原樹（日本体育大4年）

「嬉しいですね。決勝の田中選手は1年生です。自分の方が経験値で分があると思っていました。心が折れそうにもなりましたが、しぶとく戦い、意地を見せました。将来はこの階級の王者になりたいです」

●81kg級Ⅱ天野開斗（東海大2年）

「去年の講道館杯で悔しい思いをしたので、この大会にかけていました。それが結果となって嬉しいです。自分の柔道は粘って投げきる柔道です。指導で後がなくなりました。が焦らずにできたと思います」

●90kg級Ⅱ森健心（明治大4年）

「最後まで諦めずに戦うことができました。優勝できてよかったです。明治の柔道部として最後の試合でしたがそれに相応しい試合ができたと思います。今日一日は勝機を逃すことなく勝ち上がってこられました」

●100kg級Ⅱ植岡虎太郎（日本製鉄）

「連覇を意識せずに一つ一つ勝っていこうと心がけて戦いました。決勝の延長戦はとにかく我慢でした。相手の技を意識しながら攻めました。勝った瞬間はブレッシャーからの解放もあり、嬉しさが爆発しました。これからも先を見過ぎずに一つ一つ勝っていききたいです」

●100kg超級Ⅱ中野寛太（旭化成）

「狙っていたタイトルを獲得することができ、嬉しいです。期待されな

女子

がらもけがなどで思うようにできずに悔しい思いをした時期もありましたが、なんとかやってこれました。今日は、どんな相手でも絶対に勝つてやろうと決意しました。取り組んでいた成果が出せたと思います」

●48kg級Ⅱ近藤美月（東海大1年）

「相手の選手は東海大の先輩で、日々、一緒に練習しているので延長戦になるとは思っていました。しっかり最後まで強い気持ちで戦い抜けてよかったです。自分のスタイルは攻めていく柔道です。それを全部出し切りました。これを糧にもっと上を目指して頑張っていきたいです」

●52kg級Ⅱ白石響（環太平洋大4年）

「去年はけがのため、棄権負けして悔しい思いでした。こんな大きな舞台で優勝できて嬉しいです。決勝は絶対に優勝したいという気持ちで自分の攻める柔道を出し、勝つことができました。国際大会でも上位を目指したいと思います」

●57kg級Ⅱ古賀ひより（パーク24）

「（指導を取られてから）周りからたくさんアドバイスをいただきました

【大会結果】男子

100 kg超級	優勝	中野 寛太 (旭化成) 初優勝
	2位	太田 彪雅 (旭化成)
	3位	王子谷剛志 (旭化成)
		木元 拓人 (日本製鉄)
100 kg級	優勝	植岡虎太郎 (日本製鉄) 2連覇
	2位	増山 香補 (パーク24)
	3位	熊坂 光貴 (センコー)
		グリーンカラニ海斗 (日本体育大4年)
90 kg級	優勝	森 健心 (明治大4年) 初優勝
	2位	田嶋 剛希 (パーク24)
	3位	川端 倖明 (国士館高3年)
		中西 一生 (旭化成)
81 kg級	優勝	天野 開斗 (東海大2年) 初優勝
	2位	北條 嘉人 (日本大4年)
	3位	東郷 丈児 (東海大2年)
		老野 祐平 (帝京平成大4年)
73 kg級	優勝	石原 樹 (日本体育大4年) 初優勝
	2位	田中 龍雅 (筑波大1年)
	3位	内村 秀資 (自衛隊体育学校)
		竹市 裕亮 (国士館大1年)
66 kg級	優勝	武岡 毅 (パーク24) 2連覇
	2位	藤阪 泰恒 (パーク24)
	3位	杉浦 冬唯 (松波総合病院)
		内村 光暉 (自衛隊体育学校)
60 kg級	優勝	樋口 裕大 (大阪府警) 初優勝
	2位	足立 悠晟 (天理大1年)
	3位	青木 大 (帝京科学大職)
		田中 祥 (國學院大4年)

【大会結果】女子

78 kg超級	優勝	高橋 瑠璃 (SBC 湘南美容クリニック) 初優勝
	2位	瀬川 麻優 (ALSOK)
	3位	橋本 朱未 (吉川工業)
		児玉ひかる (SBC 湘南美容クリニック)
78 kg級	優勝	杉村美寿希 (東海大2年) 初優勝
	2位	泉 真生 (コマツ)
	3位	池田 紅 (東海大3年)
		和田梨乃子 (パーク24)
70 kg級	優勝	寺田宇多菜 (JR 東日本) 2回目
	2位	西願寺里保 (コマツ)
	3位	池 絵梨菜 (国士館大学柔道クラブ)
		本田 万結 (東海大1年)
63 kg級	優勝	山口葵良梨 (国士館大4年) 初優勝
	2位	青野 南美 (福岡県警)
	3位	島田 美穂 (ALSOK)
		渡邊 聖子 (警視庁)
57 kg級	優勝	古賀ひより (パーク24) 初優勝
	2位	高野 綺海 (日本エースサポート)
	3位	玉置 桃 (三井住友海上火災)
		瀬戸口葉南 (光仁会病院)
52 kg級	優勝	白石 響 (環太平洋大4年) 初優勝
	2位	藤城 心 (三井住友海上火災)
	3位	小西 彩菜 (兵庫県警)
		坪根菜々子 (自衛隊体育学校)
48 kg級	優勝	近藤 美月 (東海大1年) 初優勝
	2位	吉岡 光 (東海大3年)
	3位	稲垣 若菜 (桐蔭横浜大3年)
		宮木 果乃 (日本大1年)



78kg超級
高橋瑠璃



78kg級
杉村美寿希



70kg級
寺田宇多菜



63kg級
山口葵良梨



57kg級
古賀ひより

した。そこから自分の展開に持つていきました。(最後の抑え込みは)これで逃したら勝てないと思い、めちゃくちゃ頑張りました。まだまだ力が足りないのでもこれからは頑張っていきたいです」

●63kg級Ⅱ山口葵良梨(国士館大4年)

「去年の学生大会で青野選手に負けて、その悔しさを胸に畳に上がりました。足をけがしてから、組み手の徹底を目標にずっと組み手の練習をしてました。決勝でも、釣り手がい位置に出たので技をかけられました。組み手で制することができたのかなと思います。ロサンゼルスオリ

ンピックで金メダルが目標です。夢に向かって頑張りたいです」

●70kg級Ⅱ寺田宇多菜(JR 東日本)

「この1年間はいい結果がなかなか出ずに苦しい期間でした。『今日はいい結果を出すぞ!』と臨みました。決勝はとにかく落ち着いて自分のいいところを出せたと思います。この優勝で自分をアピールできたのかなと思います」

●78kg級Ⅱ杉村美寿希(東海大2年)

「嬉しくて涙が止まりません。決勝は絶対に勝つてやるという思いで頑張りました。最後は考えては無く、気持ちで前に出ようと意識して技に

繋がったと思います。泉選手には何度でも破れてどうしたら勝てるのかと必死に取り組んできました。少し成果が出たと思います」

●78kg超級Ⅱ高橋瑠璃(SBC 湘南美容クリニック)

「この大会はレベルが高いので、最初から延長戦も構わないと臨みました。決勝の瀬川選手には一度も勝てたことはありません。自分から技をかけることを意識しました。国内の大会でしっかり優勝して国際大会に出場できるようにと思って臨みました。一つ一つの目の前の試合を頑張りたいと思います」

令和5年度全国警察柔道大会

第1部

神奈川県警が20年ぶり優勝

令和5年度全国警察柔道大会（主催＝警察庁）が10月23日、日本武道館で開催された。試合は第1部、第2部、第3部、女子の部の4部門で団体戦が実施された。第1部は神奈川県警が20年ぶりの優勝。第2部は皇宮警察が連覇を果たし、第3部は山形県警が初優勝、そして、女子の部は大阪府警が2回目の優勝を果たした。

■第1部

第1部は7人制の団体戦により行われた。12チームを4組に分け、各組1位通過の4チームによるトーナメント戦で優勝を争った。トーナメ

ント戦へ勝ち上がったのは、神奈川県、警視庁、福岡、兵庫の4チーム。決勝戦は、神奈川県警と警視庁の対戦となった。

▽決勝戦

先鋒戦は引分。続く次鋒戦は、神奈川県・尾方と警視庁・堀川の対戦。

試合は、尾方が堀川の指導3で勝利。五将戦は、両者反則負けとなり、迎えた中堅戦。神奈川県・李が警視庁・奥田から支釣込足で一本を奪い勝利。20年ぶりの悲願に大きく前進した。続く三将戦は引分。そして副将戦は、神奈川県・山下と警視庁・北山の対戦。引分以上で神奈川県警の優勝が確定する中、一矢報いたい

警視庁であったが、山下を崩すことができず、引分で試合終了。この時点で神奈川県警の20年ぶりの優勝が決まった。大将戦は、警視庁・名垣浦が神奈川県・砂田に僅差で勝利。最終結果2―1で神奈川県警が20年ぶりの優勝を果たした。

◎優勝Ⅱ神奈川県警・平澤武夫監督

「選手たちには、チーム一丸となつて、チームで勝ちに行くぞと。失点を減らして守るところはしっかりと守ろうと伝えていました。組み合わせにも恵まれていましたし、失点がなければ優勝できると声を掛けました。選手全員がよくやってくれましたが、特にキーマンの先鋒・浅利、副将・山下がきつちりと働いてくれました」

◎優勝Ⅱ砂田勇登選手（神奈川県・大将）

「本当に人生で一番嬉しいんです。一回戦から接戦が続きましたが、後輩たちに助けられました。決勝戦では自分が出る前にチームの勝利は決まっていたのですが、自分も勝ちたかったので、そこは悔いが残りました」

■女子の部

▽決勝戦

女子の部決勝戦は大阪府警と警視

庁の対戦。大将戦まで終わって決着つかず、代表戦に突入。代表戦は、大阪・田中伶奈と警視庁・井上舞子の対戦。試合は両者ポイントを取れず終了。旗判定の結果、田中が代表戦を制し、大阪府警が初優勝に輝いた。

◎優勝Ⅱ田中伶奈選手（大阪・大将）

「決勝の代表戦は、正直とてもプレッシャーでしたが、チーム全員が背中を押して送り出してくれたので、みんなの思いを背負って絶対勝つぞという気持ちで臨みました。技で決めきれなかったけれど、得意の内股や大内で諦めずに攻め続けました。決勝の7分間、しんどかったけど、旗判定の瞬間にこれまでの苦しかった練習や出稽古を思い出し、やり切ったよかったなと思いました」

【大会結果・柔道】

第1部Ⅱ①神奈川県警②警視庁

③福岡県警

第2部Ⅱ①皇宮警察②埼玉県警

③広島県警

第3部Ⅱ①山形県警②静岡県警

③茨城県警

女子の部Ⅱ①大阪府警②警視庁

③福岡県警



第1部決勝・先鋒戦＝監督がキーマンに挙げていた神奈川県・浅利（手前）の技有り

令和5年度全国警察剣道大会

第1部

警視庁が連覇を達成

令和5年年度全国警察剣道大会（主催Ⅱ警察庁）が10月24日、日本武道館で開催された。試合は第1部、第2部、第3部、女子の部の4グループ別の団体戦が行われた。第1部は警視庁が連覇を達成。第2部は和歌山県警が初優勝、第3部は埼玉県警が優勝、そして女子の部は福岡県警が初優勝を果たした。

■第1部

第1部は7人制で12チームが参加。順位は12チームを4組に分け、各組首位のチームによるトーナメント戦で競われた。

各組首位となったのは連覇を狙う



第1部決勝・代表者戦＝
警視庁・竹ノ内（左）が小手を決める

警視庁、大阪、北海道、そして神奈川の4チーム。

準決勝は、警視庁が神奈川を代表戦で、大阪が北海道を5―1で下し、決勝へ進出した。

▽決勝戦

決勝は、連覇がかかった警視庁と、コロナ禍前に4連覇を達成した大阪の対決。

先鋒戦は、大阪・清家が警視庁・大平へ面を決め、一本勝。続く次鋒戦では警視庁・星子が、大阪・小角から面をとって勝利。すぐさま五分に戻す。五将戦では大阪・草野が小手を2本決め、加納に勝利。中堅戦は警視庁・岩切が大阪・山本へ面を決め、一本勝。その後の三将戦は引

き分け、取っては取られの一進一退の戦いが続く。

副将戦は、大阪・牛島と警視庁・宮本の対戦。本戦でお互いに面を決め、延長戦に突入。延長の末、宮本の反則により、牛島が勝利。大阪が一步リードした状態で大将戦へ。

大将戦は、警視庁・竹ノ内と大阪・土谷の対決。両者は9月の全国警察剣道選手権大会の決勝で対戦し、その時は土谷が勝利し、優勝に輝いた。試合は、両者決め手にかけて、竹ノ内が試合終盤に土谷の面を捉え、一本勝ち。後がない状況から起死回生の一本で勝者数・本数ともに同数となり、決着は代表戦へ委ねられた。

代表戦は大将戦と同じく、警視庁・竹ノ内と大阪・土谷の対戦。本戦では両者決め手に欠き時間切れ。延長戦では、お互いに慎重になり、またしても決まらず、迎えた2度目の延長戦。竹ノ内が一瞬の隙を突いた小手を決め、一本勝ち。土壇場で竹ノ内が土谷に連勝し、警視庁を連覇へ導いた。

◎優勝Ⅱ警視庁・原田悟監督

「今日の優勝は選手たちのチームワ

ークの賜物だと思っています。準決勝・決勝と代表戦までもつれる接戦続きでしたが、選手たちそれぞれが戦い方を理解して、粘り強く大将の竹ノ内まで回して勝負を決めるという思い描いていた形を実現してくれました。いい勝ち方ができたと思います」

◎優勝Ⅱ竹ノ内佑也（警視庁・大将）

「厳しい戦いが続きましたが、率直に嬉しいの一言です。チーム全員で繋いでくれた試合だったので、警視庁の大将としてここで負けるわけにはいかないと気持ちで臨みました。大将戦は一本勝負になると思っていたので、先に一本を取って代表戦に気持ちを切り替えました。土谷選手には前回警察剣道選手権大会で負けているので、ここは譲れないという強い気持ちで戦いました」

【大会結果・剣道】

第1部Ⅱ①警視庁②大阪府警

③神奈川県警

第2部Ⅱ①和歌山県警②兵庫県警

③香川県警

第3部Ⅱ①埼玉県警②新潟県警

③佐賀県警

女子の部Ⅱ①福岡県警②大阪府警

③神奈川県警

日本武道館中道場で 元気いっぱい空手道体験！

日本武道館・武道（空手道）体験会

都内在住・在勤の未就学児から大人までを対象とした空手道の体験会（主催Ⅱ日本武道館）が11月2日、日本武道館中道場で行われた。広さ400畳を誇る中道場にて、日本武道館武道学園の空手道講師による指導のもと、36名の参加者が和気あいあいと空手道体験を楽しんだ。



全員で元気いっぱいの「中段突き」



町田直和講師



荒川尊祐講師



岡林俊雄講師



渡部正人講師



戸谷和弘講師

武道学園空手道講師



初体験の参加者に講師が丁寧に手ほどきした



楽しみながら空手道体験



最後に、参加者全員で記念撮影

今回の空手道体験会は、東京都の補助を得て建設された日本武道館中道場を利用した都民還元事業として実施された。

はじめに、岡林俊雄講師が空手道の歴史や文化など概略を説明。次に、荒川尊祐講師が模範演武として、形（クーシヤンクー）を披露し、その動きについて解説した。参加者は鋭い動きに見入り、演武が終わると大きな拍手が上がった。

準備体操の後、戸谷和弘講師の指導で基本動作（突き・蹴り）の練習

が行われた。初めて体験する参加者は、講師の動きに合わせながら、思い思いに体を動かした。

休憩後、基本動作を組み合わせた基本形の練習を行った。初めは、動きの組み合わせの難しさに参加者も戸惑っていたが、慣れてくると大きな声で「エイッ」と気合を発し、形の演武を楽しんだ。

最後に岡林講師が「今日実際に体験したことを機に、空手道に興味を持っていただけたら嬉しいですね」と述べ、体験会は終了した。

速報

日本とニュージーランドが 演武を披露し合い、絆深める

令和5年度日本とニュージーランドを結ぶ武道文化交流事業（オンライン）



ニュージーランド側の演武がスクリーンに大きく映し出された



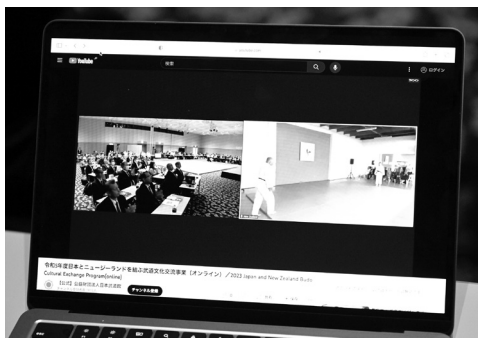
日本側の会場にて、現代武道9種目の演武披露（左写真・柔道、中央写真・剣道）と古武道セミナー（右写真・天道流薙刀術）を行った

令和5年度日本とニュージーランドを結ぶ武道文化交流事業が11月12日、両国の会場（日本側都市センターホテル〈東京都千代田区〉、ニュージーランド側オークランド剣道クラブ道場〈オークランド・オネフンガ〉）をオンラインで繋ぎ開催され

た。

日本側は現代武道9種目の演武披露と天道流薙刀術の古武道セミナーを、ニュージーランド側は柔道、剣道、空手道、合気道、少林寺拳法、居合道の6種目の演武などを行った。両国の参加者はスクリーンを通して演武を見つめ、演武後には活発な質疑応答を行い、交流を深めた。

なお、両国の交流の様子は動画投稿サイト「ユーチューブ」で、武道愛好者をはじめとする世界中の人々へ向け、ライブ配信された。



交流の様子が「ユーチューブ」でライブ配信された。
画面左が日本、右がニュージーランドの会場

次号、カラーグラフにて当事業の詳細をお届けします。